

## 一般演題9-2

### 高気圧酸素治療における医薬品の持ち込みの検討

甲斐雄多郎 灘吉進也 今林和馬

後藤陽次郎 大田健志

社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 臨床工学科

#### 【背景】

高気圧酸素治療(以下HBO)の適応は、術後や創傷治癒目的と幅広く、油脂類や引火性の恐れがある医療用医薬品を使用し、治療を実施しなければならないケースがある。医薬品の持ち込みの現状は、①貼付薬や軟膏を使用しており治療を実施しない場合。②貼付薬を外し、軟膏を拭って治療を実施する場合。③医薬品を使用しているが治療を実施する場合と施設によって様々であり持ち込みに対する判断が定まっていない。

#### 【目的】

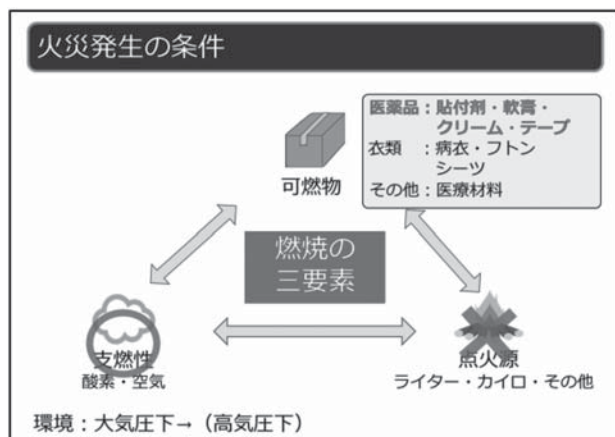
HBO関連の指針や基準において、油脂類やその他の引火性物品等の持ち込みは禁止されており、その危険性も留意しておかなければならない。

今回、HBOにおける医薬品の持ち込みについて検討したので報告する。

#### 【火災発生の条件】

火災が発生する条件には、燃焼の三要素がある。可燃物には、医薬品や衣類などがある。治療において、駆動源である酸素・空気は必要であり、点火源は、持ち込まないことを前提とし、医薬品が、大気圧下において危険物に該当するか検討した。

火災発生の条件



#### 【方法】

医薬品医療機器総合機構ホームページより、添付文書等検索から軟膏・クリームと貼付剤・テープにて名称検索を行った。医薬品の有効成分と添加物をSDS(安全データシート)15項適用法令を参照し、消防法別表にて区分した。

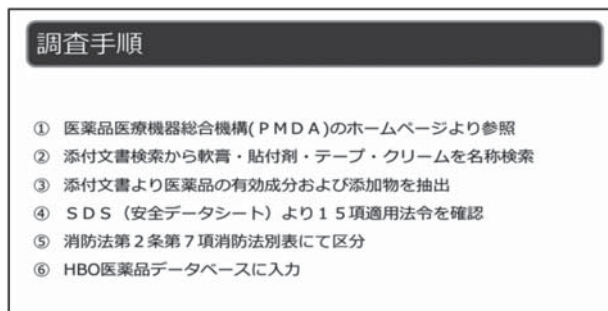
#### 【結果】

医薬品751種類がHitし、有効成分と添加物あわせて6906種、内訳は、軟膏2607、クリーム2558、貼付剤742、テープ999であった。消防法別表より第1類(酸化性固体)1、第2類(可燃性固体)654、第4類(引火性液体)1897、第5類(自己反応性物質)22、該当なし4332であった。最も多い含有成分は、流動パラフィン396、白色ワセリン323であった。

#### 【考察】

医薬品は、有効成分と添加物にて組成され、殆どが消防法による危険物に該当した。持ち込み不可医薬品723種、持ち込み可医薬品28種であった。今回は、全ての医薬品を網羅していないため、各施設の責任のもと持ち込みを判断しなければならない。その際は、適切な手順にて危険物を把握することが必要である。

調査手順



調査結果のまとめ

結果	
● 添付文書	: 貼付剤/軟膏/クリーム/テープ: 全751種 (65/328/217/141)
● 有効成分・添加物	: 貼付剤/軟膏/クリーム/テープ: 全6906種 (742/2607/2558/999)
● 消防法別表	: 第1類(酸化性固体) 1種
	: 第2類(可燃性固体) 654種
	: 第4類(引火性液体) 1897種
	: 第5類(自己反応性物質) 22種
	: 非該当 4332種